

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 10月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3670400229
法人名	有限会社 中川開発
事業所名	グループホーム 阿南向日葵
所在地	徳島県阿南市日開野町筒路10番地1 (電 話) 0884-24-3636
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 9月 25日

## 【情報提供票より】(平成19年 9月 10日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成15年 4月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 10人, 非常勤 7人, 常勤換算 1階 6.2人, 2階 6.6人	

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000 円	その他の経費(月額)	光熱費1日100円、その他実費	
敷 金	有( ) 円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4)利用者の概要(9月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.95 歳	最低 62 歳	最高 94 歳		

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	・島内科眼科医院	・宮本病院	・岩浅歯科医院
---------	----------	-------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは商店が立ち並ぶ市街地に立地し、その条件を有効に活用して買い物や散歩、喫茶店でコーヒーを楽しむなど、利用者の生活習慣に沿った外出支援が行なわれ、近隣住民や店主等との「なじみの関係」が築かれている。管理者は、外部評価とは別にホーム独自の自己評価を全職員で実施し、ケアの見直し、職員の資質の向上、ケアのレベルアップに向けた取り組みがなされている。事業所は、精神障害者社会適応訓練事業を受けており、日常の暮らしのなかで、利用者と訓練生との互助の関係が自然に築かれ、ホームの理念である「なじみの関係づくり」の実践の成果が感じられた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題である理念については、利用案内文に明示されていた。トイレ、浴室等への案内表示、地域向け「ホームだより」の作成等も改善されていた。緊急時の手当てに関しては、緊急処置のマニュアルはあるが初期対応訓練は実施されていない。市町村との連携に関しても、グループホームの実情やケアサービス等について、担当職員と話し合えるまでには至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、サービス評価の意義や目的についてユニットリーダーや職員とよく話し合い、全職員で自己評価を行うなど、前回の評価結果を照らし合わせ、具体的な改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、事業所の取り組み状況等の報告や委員からの質問、意見等に対する話し合いが行なわれている。しかし、運営推進会議の構成メンバーに市の担当職員、地域包括支援センター職員の参加は得られていない。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の日々の暮らしやエピソード、健康状態等が担当職員によって毎月家族に報告され、随時の連絡も取られている。玄関先に設置した意見箱がよく活用され、家族の意見、要望等についての相談や検討がされ、対応内容や報告状況等は詳細に記録・保存されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所近辺は人通りが多く、買い物等で行き交う人々や登下校の学生達と日常的に挨拶が交わされ、地域行事、市民会館でのフォーラム等にもよく出向かれている。また、事業所の夏祭りや敬老会等の行事には、近隣住民や地元高校の学生ボランティアの参加もあり、消防署、商店街の人々とは日頃から積極的に地域交流が図られている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は、利用者が地域のなかでその人らしく生活し続けることを支援するためには、人、環境、地域の「なじみの関係」が大切であることを認識され、事業所独自の理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎朝のミーティングで理念を唱和するなど共通認識が図られ、職員の声かけや態度等、日常のケアのなかでも「なじみの関係」を大切にしたり取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は商店が建ち並ぶ市街地に位置し、地域行事や近くの市民会館で行なわれるフォーラム等にもよく出向かれています。事業所の夏祭りや敬老会等の行事には、近隣住民や地元高校の学生ボランティアの参加があるなど積極的な地域交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、サービス評価の意義や目的について、ユニットリーダーや職員とよく話し合い、全職員で自己評価を行っている。また、前回の評価結果を照らし合わせ、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、事業所の取り組み状況等の報告や委員から出された質問、意見等に対して話し合いがもたれている。しかし、構成メンバーに、市の職員、地域包括支援センターの職員の協力は得られていない。	○	運営推進会議の構成メンバーに市の職員、地域包括支援センター職員も迎えられ、評価結果で明らかになった課題等を報告し、十分な話し合いをもつなど、サービスのさらなる向上に活かされたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市町村との連携の必要性を認識し、相談等の機会に市の窓口に向くことはあるが、気軽に話し合える関係までには至っていない。	○	保険者である市町村との連携は、地域密着型サービス事業を推進していくうえで不可欠であり、事業所の取り組み状況等を知ってもらうためにもこまめに足を運ばれ、市町村と友好的な関係を築かれるよう、今後の取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の暮らしぶりやエピソード、健康状態等が担当職員によって毎月家族へ報告され、緊急時には随時の連絡もとられている。また、金銭の出納は「おこづかい帳」で管理し、領収シートと共に家族に収支報告を行い、確認印も押されていた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱が設置され、実際に利用もある。出された意見、苦情等については検討、対応策、報告記録が残されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない職員の離職や交代時には、引継ぎの期間を十分に取るなど、「なじみの関係」を損なわない配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の資質向上の必要性を認識し、各自に応じた研修の機会が確保されている。また、毎月の職員会では、研修会の報告やユニットリーダーが中心となって事例検討会等を開くなど、前向きな取り組みが見られた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、日頃から同業者と交流の機会を積極的に持ち、情報交換や相互評価を行なうなど、共にサービスの質を高める取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを受けられるよう、ホームの見学や相談、説明は納得いくまで丁寧に行なわれている。また、体験入居も実施され、家族と相談しながら、利用者自らが選べるよう支援されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を「人生の先輩」と敬い、共に暮らす同志として支えあい、利用者の得意なことを教えてもらうなど、尊厳を重視した支援がなされている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者ゆつたりと向きあうことを大切にし、表情や態度、会話のなかで本人の希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、日々の申し送りや週1回のカンファレンス、毎月行われている職員会での意見が反映され、本人・家族、主治医等の意見や要望等が取り入れられるなど、利用者主体の暮らしを重視した内容となっていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、期間に応じた見直しと、利用者の状態変化による随時見直しが行なわれ、ケア内容、行動計画の変更等、現状に即した見直しが行なわれていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制の指定を受けられ、なじみの看護師が24時間緊急時等必要に応じて対応できる体制がとられ、リハビリ、通院等は、要望に応じて支援されている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者各自のかかりつけ医の受診等、本人・家族の希望にそった支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の過ごし方について、家族と職員で話し合い、アンケート調査による意思確認は行なわれている。しかし、医師を交えての具体的な話し合いや方針の確定までには至っていない。	○	終末期における医療処置の対応について、関係者等が方針や支援の具体的内容について話し合い、関係者間で統一した方針が共有できるよう早期の取り組みが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関しては、運営規定、契約書等に明記され、外部からの問い合わせ等には細心の注意が払われるなど、秘密保持の徹底が図られている。職員は、排泄の誘導など、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	近くの歯科医院へ歯の治療に行かれたり、畳の部屋でくつろいだり、テレビを見ながらソファで談笑する等、思い思いに過ごされており、個人の希望により近隣の喫茶店でコーヒーを楽しむ支援等も行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、食材の買い出しや野菜の収穫、大根おろしや配膳・下膳等、できることを職員と一緒にいき、食事時間はゆったりと楽しい雰囲気です。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者の希望に合わせて支援されており、入浴時間、曜日等が固定されつつある入居者もおられるが、要望、必要時に応じて柔軟に対応されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事時には、テーブルを拭いたり料理を運ぶなどかいがいしくお世話する利用者もおられ、ホールのテーブルには利用者(元家元)が活かした季節の花が飾られるなど、個々の能力や生活歴を活かした役割、楽しみごとの支援が行なわれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の喫茶店へ出向かれたり、小人数の散歩や食材の買い出し等一人ひとりの希望にそった外出支援が行なわれ、ホームの菜園で、花や野菜づくりを楽しむ利用者もおられる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは、交通量の多い市街地に立地しており、チャイムは設置しているが、日中、玄関に鍵は掛けていない。職員の見守り体制を強化する等、利用者や訪問者が自由に気安く出入りできる取り組みがなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し、消防署の協力で避難訓練は毎年実施し、災害時に備えた炊き出し訓練等も行なっている。しかし、地域の人たちと、災害時における協力関係は築かれていない。	○	事業所の避難訓練に近隣住民の参加を呼びかけ、役割り分担や互助の関係を強化する等、早急な働きかけが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの1日の食事摂取量や水分摂取量が把握されている。医師等による専門的観点からの指導もあり、個々の状態をみきわめ習慣に応じた支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには季節の草花が植えられ、廊下、居間のコーナーにはススキの生け花、月見だんご、栗等の創作品を展示するなど、ホーム全体に季節感を取り入れ、利用者が、調理する音や匂い等を体感しながらゆったりと過せるよう工夫され、家庭的であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真や馴染みある人形、置物等が持ち込まれ、その人独自の居室づくりが支援され、利用者が居心地よく過せるよう工夫されている。		